

第 94 回 東葛しぜん研修観察会

緑あふれる千駄堀とヤマユリ香る森を巡る

三角紀久子（流山市）

日 時：2021 年 7 月 11 日（日） 9 時 30 分～12 時

場 所：八柱駅～しんやまの森～芋の作の森～21 世紀の森と広場（松戸市）

参加者：10 名、担当：三角・草野・三嶋

松戸市の民有地にひっそりと咲く 200 株のヤマユリと知られざる緑の回廊を巡る、3 年前に企画された観察会が今年やっと開催できました。八柱駅からほぼ北に走る武蔵野線の西側に広がる千駄堀地区は住宅地を 10 分歩くと登り坂の眼前に緑の森が広がります。

初めに訪れた「しんやまの森」は松戸市里やまボランティア講座 5 期生としんやま地区の地元会員が 13 年前に不法投棄のゴミの山を片付けて、藪漕ぎして境界線を確認した森です。今では程良く落ち着いた森ですが、この数年で森中に広がったミドリハカタカラクサ（緑博多唐草 ツユクサ科）の除去の困難なこと、一昨年台風 19 号で二股のヤマザクラの片方が倒れ、百両（カラタチバナ）が潰され被害にあったこと、昨年はコナラがカシノナガキクイムシの集中アタックを受け ナラ枯れ対策とカシナガ拡散防止の為にネットを巻いた 6 本の樹木や捕獲用簡易トラップの説明をして 森を見学してもらいました。雨続きだったせいか、たくさんのキノコが出ていて、ナナフシモドキやアオスジアゲハとの出会いがありました。

次に訪ねた「芋の作の森」は里やま講座 8 期生「八輝の会」と地主の土屋さんが一緒に自生の植物を大事に護っている森です。特に大輪の白く香りのよい「ユリの王様」と言われるヤマユリは 下草刈りを行い 支柱を立て、茎が細いので伸びる度々に紐かけと手をかけて、斜面一体に 200 株ほどまで 10 年をかけて増やしたそうです。今年はこの数年の気候変動とコロナ禍がヤマユリの開花にも影響が出ている様子で、65 輪と少なめの開花でしたが、独特の濃厚な香りを堪能しました。この森で確認した草本 50 種の説明で、ヒヨドリバナ・アキノタムラソウ・ワニグチソウ・ヤブミョウガ・コウヤボウキが見られました。この日はヤマユリの公開観察会と、森の紹介のためのビデオ撮影があり、いつもより賑やかでした。

森を出て、途中の庭先に咲く、オトメユリ・カノコユリ・タカサゴユリ・オニユリなどの違いを楽しんで、香取神社・円能寺・安蒜家長屋門を見て、21 世紀の森と広場の南口にゴールしました。梅雨の合間の蒸し暑く 足元注意の起伏に富んだコースでしたが、久しぶりに目に優しい観察会で 8000 歩超えでした。



芋の作の森 増えてきたコウヤボウキ